



# Red Hat Developer Hub 1.1

Red Hat Developer Hub 1.1 のリリースノート





## 法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

Red Hat Developer Hub は、開発者ポータルを構築するための開発者プラットフォームです。これは、Red Hat Developer Hub 1.1 のリリースノートに関するドキュメントです。

---

# 目次

はじめに .....	3
RED HAT DEVELOPER HUB のサポート .....	4
第1章 このリリースについて .....	5
1.1. サポート対象のプラットフォーム .....	5
1.2. サポート対象のアーキテクチャー .....	5
1.3. RED HAT DEVELOPER HUB HELM チャートのアップグレード .....	6
第2章 新機能 .....	7
2.1. RED HAT DEVELOPER HUB OPERATOR の一般提供を開始 (GA) .....	7
2.2. 製品版の変更点 .....	7
2.3. WEB インターフェイスを使用してロールベースのアクセス制御 (RBAC) を管理する機能 .....	7
2.4. RED HAT DEVELOPER HUB の新しいバックエンドシステムへの移行 .....	7
2.5. ELASTIC KUBERNETES SERVICES (EKS) のサポート .....	7
2.6. AZURE KUBERNETES SERVICES (AKS) のサポート .....	8
2.7. WEB インターフェイスを使用したインストール済みプラグインの表示のサポート .....	8
2.8. RED HAT DEVELOPER HUB 1.1 でサポートされるプラグイン .....	8
第3章 互換性を失わせる変更点 .....	9
3.1. GITHUB ORGANIZATION カタログプロバイダーにおける設定変更 .....	9
第4章 テクノロジープレビュー .....	10
4.1. RED HAT DEVELOPER HUB で利用可能なプラグイン .....	10
第5章 既知の問題 .....	11
5.1. RED HAT DEVELOPER HUB 1.1.2 の既知の問題 .....	11
5.2. RED HAT DEVELOPER HUB 1.1.0 および 1.1.1 の既知の問題 .....	11
第6章 修正された問題 .....	12
6.1. RED HAT DEVELOPER HUB 1.1.0 および 1.1.1 で解決された問題 .....	12
6.2. RED HAT DEVELOPER HUB 1.1.0、1.1.1、および 1.1.2 の機能拡張およびバグ修正 .....	12



## はじめに

Red Hat Developer Hub (Developer Hub) 1.1 の一般提供 (GA) が開始されました。Developer Hub は、アップストリームの Backstage v1.23.4 エンタープライズグレードの製品化バージョンで、完全にサポートされています。[カスタマーポータル](#) にアクセスし、Red Hat Developer Hub をダウンロードできます。

## RED HAT DEVELOPER HUB のサポート

このマニュアルに記載されている手順で問題が発生した場合は、[Red Hat カスタマーポータル](#) を参照してください。Red Hat カスタマーポータルは次の目的に使用できます。

- Red Hat 製品に関する技術サポート記事の Red Hat ナレッジベースの検索または閲覧。
- Red Hat Global Support Services (GSS) の [サポートケース](#) の作成。サポートケースを作成するには、製品として **Red Hat Developer Hub** を選択し、適切な製品バージョンを選択してください。



## 第1章 このリリースについて

このリリースノートでは、Red Hat Developer Hub 1.1 に実装されている機能の概要について説明し、このリリースの既知の問題をドキュメント化しています。

このリリース内の一部の機能はテクノロジープレビューとして利用できる場合があります。今後発表予定の製品機能をリリースに先駆けてご提供することにより、お客様は機能性をテストし、開発プロセス中にフィードバックをお寄せいただくことができます。

Red Hat のテクノロジープレビュー機能のサポート範囲についての詳細は、[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#) を参照してください。

以下は、Red Hat Developer Hub の利点です。

- **開発者の生産性の向上:** 一般的な組織の課題を排除して、シームレスなコラボレーションを可能にし、アプリケーションの作成、開発、デプロイのための明確なガイドラインを提供することにより、生産性が向上します。
- **統合セルフサービスダッシュボード:** Git、CI/CD、SAST/DAST、サプライチェーン、OpenShift/Kubernetes クラスター、JIRA、モニタリング、API、ドキュメントなどのさまざまな側面をカバーする統合ダッシュボードを開発チームに提供します。これらは、150 超のプラグインで容易となっています。これらはすべて、企業のベストプラクティスに沿ってプラットフォームエンジニアリングチームがキュレートしています。
- **ソフトウェアテンプレートによるベストプラクティス:** 新しいアプリケーションの作成、Ansible ジョブの実行、Git での実稼働デプロイメントのための CI/CD パイプラインの確立などの一般的なタスクをエンコードすることで、組織のベストプラクティスを自動化します。
- **スケーラブルな技術ドキュメント:** コードとドキュメントは同じリポジトリに存在し、独自のドキュメントシステムへの依存を排除します。
- **新規開発者の効率的なオンボーディング:** 新規開発者はすぐに適応し、短期間で生産性を向上させます。
- **堅牢なエンタープライズロールベースのアクセスコントロール (RBAC):** 管理者がロールを作成し、ユーザーまたはグループをロールに割り当て、アクセス制御を強化するための堅牢なセキュリティポリシーを実装できるようにします。

### 1.1. サポート対象のプラットフォーム

- OpenShift Container Platform 4.12、4.13、4.14、4.15
- Red Hat OpenShift Service on AWS (ROSA)
- Azure Red Hat OpenShift (ARO)
- Amazon Elastic Kubernetes Service (EKS)
- Microsoft Azure Kubernetes Service (AKS)
- [テクノロジープレビュー] Google Kubernetes Engine (GKE)

### 1.2. サポート対象のアーキテクチャー

コンテナーは次の CPU アーキテクチャーで使用できます。

- AMD64 および Intel 64 (x86\_64)

### 1.3. RED HAT DEVELOPER HUB HELM チャートのアップグレード

以下を使用して、Red Hat Developer Hub の新しいバージョンにアップグレードできます。

- OpenShift Web コンソール
  1. **Developer** パースペクティブで **Helm** をクリックし、**Helm Releases** タブを開きます。
  2. Helm リリースエントリーの横にある 3 つの点をクリックし、**Upgrade** を選択します。
  3. **Upgrade Helm Release** ページで、チャートのバージョンドロップダウンリストからアップグレードする Developer Hub のバージョンを選択します。
  4. **Upgrade** をクリックします。



#### 注記

古いバージョンのリソースが削除され、新しいバージョンの Developer Hub Pod が起動されるまで待つ必要があります。

5. 開いているすべての Developer Hub Web ページを閉じ、再度ログインしてアップグレードが成功したことを確認します。
- OpenShift CLI
    1. クラスター管理者として OpenShift クラスターにログインし、**devhub** プロジェクトに切り替えます。

```
oc login -u <user> -p <password> https://api.<HOSTNAME>:6443
oc project devhub
```

2. Developer Hub Helm チャートのバージョンが新しい場合は、次のアップグレードコマンドを実行します。

```
helm upgrade -i rhdh -f new-values.yml \
  openshift-helm-charts/redhat-developer-hub --version 1.1.4
```



#### 注記

インストールされたチャートの属性を上書きする値を含む **new-values.yml** ファイルをワークステーション上に作成するか、新しい属性を追加することで、チャートに追加の値を提供できます。

## 第2章 新機能

このセクションでは、Red Hat Developer Hub 1.1 の新機能に焦点を当てます。

### 2.1. RED HAT DEVELOPER HUB OPERATOR の一般提供を開始 (GA)

Red Hat Developer Hub Operator を使用して、OpenShift Container Platform クラスターに Developer Hub をインストールできます。詳細は、[管理ガイド](#) の [Operator を使用した Red Hat Developer Hub のインストール](#) セクションを参照してください。

### 2.2. 製品版の変更点

Red Hat Developer Hub の製品バージョンは、アップストリームの Backstage プロジェクト v1.23.4 をベースにしています。

### 2.3. WEB インターフェイスを使用してロールベースのアクセス制御 (RBAC) を管理する機能

管理者は、Developer Hub を使用して、特定のロールおよびパーミッションを個々のユーザーまたはグループに割り当てるできるようになりました。Developer Hub Web インターフェイスを使用すると、以下のアクションを実行できます。

- ロールの作成
- ロールおよび関連するパーミッションの編集
- ロールの削除

詳細は、[管理ガイド](#) の [Red Hat Developer Hub のロールベースのアクセス制御](#) を参照してください。

### 2.4. RED HAT DEVELOPER HUB の新しいバックエンドシステムへの移行

Red Hat Developer Hub 1.1 が Backstage 新しいバックエンドシステムに移行されるようになりました。この移行により、Developer Hub アプリケーションで次のような機能に関連する変更が確認できます。

#### 2.4.1. 新しい Scaffolder Identity クライアント

アイデンティティクライアントの機能は、新しいバックエンドシステム Scaffolder プラグインによって提供されるものと、以前のリリースで使用されていたものとは若干異なります。

新しいバックエンドシステムの Scaffolder プラグインは、アイデンティティサービスを使用するため、エラー処理が若干異なります。たとえば、要求で無効な認証ヘッダーが発生した場合、Developer Hub はエラーを破棄するのではなく、コンソールにログを記録します。

#### 2.4.2. すべての GitLab アクションの有効化

Red Hat Developer Hub 1.1 では、すべての GitLab アクションがデフォルトで有効になります。

### 2.5. ELASTIC KUBERNETES SERVICES (EKS) のサポート

EKS クラスターに Red Hat Developer Hub をインストールして使用できるようになりました。

詳細は、[管理ガイド](#)の [Amazon Web Services との Red Hat Developer Hub の統合](#) セクションを参照してください。

## 2.6. AZURE KUBERNETES SERVICES (AKS) のサポート

AKS クラスターに Red Hat Developer Hub をインストールして使用できるようになりました。

詳細は、[管理ガイド](#)の [Red Hat Developer Hub と Azure Kubernetes Services との統合](#) セクションを参照してください。

## 2.7. WEB インターフェイスを使用したインストール済みプラグインの表示のサポート

管理者は、Developer Hub Web インターフェイスを使用して、インストールされているプラグインのテーブルを表示できるようになりました。この機能は、Red Hat Developer Hub に現在インストールされているプラグインのテーブルを生成する **dynamic-plugins-info** フロントエンドコンポーネントを使用します。プラグインテーブルにクライアント側の並べ替え、フィルタリング、ページネーションを適用できます。

詳細は、[管理ガイド](#)の [インストール済みプラグインの表示](#) セクションを参照してください。

## 2.8. RED HAT DEVELOPER HUB 1.1 でサポートされるプラグイン

サポートされている動的プラグインの包括的な一覧を取得するには、[管理ガイド](#)の [Red Hat Developer Hub に含まれる動的プラグイン](#) セクションを参照してください。

## 第3章 互換性を失わせる変更点

このセクションでは、Red Hat Developer Hub 1.1 の重大な変更点をリストします。

### 3.1. GITHUB ORGANIZATION カタログプロバイダーにおける設定変更

新しいバックエンドシステムの GitHub 組織カタログモジュールは、複数の GitHub 組織からデータを取得することができる新しい **GithubMultiOrgEntityProvider** プロバイダーに切り替えられました。この新しいプロバイダーは、デフォルトのプラグイン設定に変更をもたらします。**@backstage/plugin-catalog-backend-module-github-org** プラグインをアップグレードし、次の方法で再設定する必要があります。

```
kind: ConfigMap
apiVersion: v1
metadata:
  name: app-config-rhdh
data:
  app-config-rhdh.yaml: |
    ...
    catalog:
      providers:
        githubOrg:
          id: production
          githubUrl: "${GITHUB_URL}"
          orgs: [ "${GITHUB_ORG}" ] 1
    ...
```

**1** **\${GITHUB\_ORG}** は、ユーザーの取り込み元の GitHub 組織に置き換えます。

詳細は、[スタートガイド](#) の [Red Hat Developer Hub での GitHub 組織メンバー検出の有効化](#) を参照してください。

## 第4章 テクノロジープレビュー

このセクションでは、Red Hat Developer Hub 1.1 のテクノロジープレビューにある機能をリストします。



### 重要

本章の機能はテクノロジープレビュー機能です。テクノロジープレビュー機能は、実稼働環境での Red Hat サービスレベルアグリーメント (SLA) ではサポートされておらず、機能的に完全ではない可能性があるため、Red Hat では実稼働環境での使用を推奨していません。これらの機能は、今後の製品機能への早期アクセスを提供することで、お客様が機能をテストし、開発プロセス中にフィードバックを提供できるようにしています。

Red Hat のテクノロジープレビュー機能のサポートの詳細は、[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#) を参照してください。

### 4.1. RED HAT DEVELOPER HUB で利用可能なプラグイン

Red Hat Developer Hub には、さまざまな動的プラグインが組み込まれています。Red Hat は特定のプラグインを完全にサポートしていますが、その他のプラグインはコミュニティによってサポートされているプロジェクトになります。一部のプラグインはデフォルトで有効になっていますが、その他のプラグインは設定が必要なため、デフォルトで無効になっています。

動的プラグインを有効、無効、または設定する方法は、[管理ガイドの動的プラグインのインストール](#) セクションを参照してください。

サポートされている動的プラグインの包括的な一覧を取得するには、[管理ガイドの Red Hat Developer Hub に含まれる動的プラグイン](#) セクションを参照してください。

## 第5章 既知の問題

### 5.1. RED HAT DEVELOPER HUB 1.1.2 の既知の問題

#### デプロイメントがエラーで失敗し、移行テーブルがすでにロックされている

Developer Hub を最新の 1.1.z Helm チャートに更新するときに、クラスター上に 1 つ以上の既存の Developer Hub インスタンスがある場合、既存の Helm チャートまたはデータベースは新しいデプロイメントと互換性がない可能性があります。

その結果、新しい Developer Hub インスタンスをデプロイするときに、別の名前空間を使用している場合でも、デプロイメントがエラーメッセージ **MigrationLocked: Migration table is already locked** で失敗する可能性があります。

**回避策:** 既存の ConfigMap および Helm チャート設定を保存し、最新の 1.1.z Helm チャートをデプロイする前に、既存の Red Hat Developer Hub デプロイメントを削除します。

### 5.2. RED HAT DEVELOPER HUB 1.1.0 および 1.1.1 の既知の問題

#### Openshift 開発者コンソールで Helm チャートのアップグレードリリースが失敗する

Helm CLI を使用して Developer Hub を手動でインストールした場合、OpenShift Developer Console で Helm チャートのリリースアップグレードが失敗します。

**回避策:** Helm CLI を使用してアップグレードできます。それでもコンソールを使用してアップグレードする場合は、回避策として、ドロップダウンリストから Helm チャートのバージョンを選択し、アップグレードする Developer Hub のバージョンを選択します。この回避策を実行する前に、**values.yaml** 設定ファイルを他の場所に保存するようにしてください。

#### 永続キャッシュを使用した Developer hub のアップグレードパスに関する問題

Red Hat Developer Hub でキャッシュを設定しており、新しいバージョンにアップグレードする予定の場合は、そのキャッシュが削除されていることを確認してください。アップグレード後に新しいキャッシュが再作成されます。

#### 新しいバックエンドシステム用の Events プラグインの再設計が進行中

**Events** プラグインは新しいバックエンドシステムによって完全にはサポートされていないため、その有用性は、まったくないとは言わないまでも、大幅に低下します。

新しいバックエンドシステム向けにすべての **Events** プラグインサポートを再設計しているところですが、このリリースの Red Hat Developer Hub に統合できるプラグインはまだありません。この制限により、サードパーティーが Red Hat Developer Hub の動的プラグインとして提供するプラグインまたはモジュールのイベントを完全に使用できなくなります。

#### RBAC プラグインの問題

新しいバックエンドシステムでは、動的にインストールされたすべてのプラグインの ID を自動的に取得できません。つまり、RBAC をサポートする動的プラグインの権限は、RBAC UI に自動的に表示されません。

**回避策:** Developer Hub アプリケーション設定ファイルに、RBAC をサポートする動的プラグイン ID のリストを手動で追加できます。

#### OpenShift Container Platform 4.15.3 のデプロイメントに関する問題

OpenShift Container Platform 4.15.3 のデプロイメントで報告された既知の問題を回避するには、Developer Hub インスタンスを OpenShift Container Platform 4.15.2 以前のバージョンにデプロイします。詳細は、[OCBUGS-31080](#) を参照してください。



## 第6章 修正された問題

### 6.1. RED HAT DEVELOPER HUB 1.1.0 および 1.1.1 で解決された問題

#### 6.1.1. Red Hat Developer Hub 1.1.1 におけるセキュリティー修正

このリリースでは、次のようなセキュリティー修正が複数適用されています。

- [NodeJS update for RHSA 128590](#)
- [CVE-2024-28176](#) Jose に制御不能なリソース消費に関する脆弱性 (ocm-backend プラグイン) があることが判明しました。
- [CVE-2024-28849](#): follow-redirects パッケージに脆弱性が見つかりました。follow-redirects が 1.15.6 に更新されました。

### 6.2. RED HAT DEVELOPER HUB 1.1.0、1.1.1、および 1.1.2 の機能拡張およびバグ修正

#### 6.2.1. Red Hat Developer Hub 1.1.2 の機能強化とバグ修正

##### カスタムサイドカーコンテナを使用できない

以前のバージョンの Developer Hub では、Developer Hub イメージをオーバーライドしてサイドカーコンテナを使用することはできませんでした。

Red Hat Developer Hub 1.1.2 では、カスタムリソースの **spec.rawRuntimeConfig** フィールドで定義されたサイドカーコンテナイメージは、**RELATED\_IMAGE\_\*** 環境変数または **spec.application.image** フィールドによって上書きされません。

##### Kubernetes クラスター内の非公開イメージのサポート

以前のバージョンの Developer Hub では、Operator を使用して Red Hat Developer Hub をインストールするときに、PostgreSQL Pod のイメージプルシークレットを設定するオプションはありませんでした。

その結果、ローカル PostgreSQL データベースの場合、この問題により、ユーザーは Amazon Elastic Kubernetes Service (EKS) や Microsoft Azure Kubernetes Service (AKS) などの OpenShift Container Platform 以外のクラスターで非パブリックイメージを使用できなくなりました。

Red Hat Developer Hub 1.1.2 では、**spec.application.imagePullSecrets** で Developer Hub と PostgreSQL Pod の両方のイメージプルシークレットを設定できます。

##### Helm CLI を使用して Red Hat Developer Hub 1.1.1 をインストールできない

Developer Hub 1.1.0 のリリース後、OpenShift Helm チャートの名前が変更になり、シークレットの Developer Hub 1.1.0 命名規則との互換性がなくなりました。

その結果、Developer Hub 1.1.1 では、Helm CLI によってインストールされたコンテナは起動に失敗します。

Developer Hub 1.1.1 で導入されたこの回帰は、Developer Hub 1.1.2 で修正されています。

##### OperatorPod でメモリー不足エラーが発生する可能性がある

デプロイメントやサービスなどのオブジェクトが多数含まれるクラスターでは、メモリー割り当てが不十分なため、Developer Hub Operator Pod が失敗し、**OOMKilled** ステータスが表示される場合があります。



Developer Hub 1.1.2 では、Pod に 1Gi のメモリーを割り当てることでこの問題が解決します。

## 6.2.2. Red Hat Developer Hub 1.1.1 の機能強化とバグ修正

### ArgoCD プラグインが 2.6.2 から 2.4.1 にダウングレード

ArgoCD バックエンドプラグインが使用されている場合、EntityArgoCDHistoryCard は機能しません。この問題は、ArgoCD プラグインバージョンを 2.4.1 に戻すことで修正されています。詳細は、<https://github.com/RoadieHQ/roadie-backstage-plugins/issues/1238> を参照してください。

### Helm チャートのデプロイメントの問題

Red Hat Developer Hub 1.1.0 では、config.openshift.io API グループでリソース ingress を取得できないため、クラスター管理者の権限のないユーザーは、ホスト型 OpenShift Container Platform インスタンスに Red Hat Developer Hub 1.1.0 Helm チャートをデプロイできませんでした。このリソースへのアクセス権が通常のユーザーにはなく、クラスター管理者のみにあるため、**clusterRouterBase** に使用するドメインについて OpenShift Container Platform クラスター Ingress を自動的に照会しないことで、この問題は修正されました。

そのため、1.1.1 Helm チャートを使用して Red Hat Developer Hub をインストールする場合は、**clusterRouterBase** 値を設定する必要があります。詳細は、Red Hat Developer Hub の **管理ガイド** の **Helm チャートを使用した Red Hat Developer Hub のインストール** セクションを参照してください。

### RBAC バックエンドのクリーンアップ

Developer Hub 1.1.0 アプリケーションからすべての管理ユーザーを削除しても、管理メタデータとポリシーは引き続き存在します。これは Developer Hub 1.1.1 で解決され、ユーザーデータが正しく削除されるようになりました。詳細は、<https://github.com/janus-idp/backstage-plugins/pull/1314> を参照してください。

### Tekton UI の改善

Roxctl イメージチェックでは、予期される形式の応答が含まれておらず、UI が壊れることがあります。この問題は、Red Hat Developer Hub 1.1.1 で修正されています。詳細は、<https://issues.redhat.com/browse/RHTAPBUGS-1175> および <https://github.com/janus-idp/backstage-plugins/issues/1355> を参照してください。

### Topology ビューのルートに誤ったマッピングが表示される

Red Hat Developer Hub 1.1.1 では、複数の名前空間からリソースがフェッチされる場合、ワークロードと名前空間が同じになるようにサービスとルートを確認する機能が追加されました。詳細は、<https://issues.redhat.com/browse/RHTAPBUGS-1166> および <https://github.com/janus-idp/backstage-plugins/pull/1389> を参照してください。

### OAuth2 プロキシ (OIDC) でのログアウトの問題

Developer Hub 1.1.0 には、Keycloak で OAuth2 Proxy を使用するユーザーがサインアウトされる問題があります。このサインアウト問題を解決するために、1.1.1 では auth-backend-module-oidc-provider のフォークバージョンが提供され、Keycloak を使用して OIDC プロバイダーに切り替えることができるようになりました。詳細は、<https://issues.redhat.com/browse/RHDHBUGS-11> および <https://github.com/janus-idp/backstage-showcase/pull/1072> を参照してください。

### Red Hat Developer Hub 1.1.1 でのプラグインの変更

プラグイン	1.1.0 のバージョン	1.1.1 のバージョン
@roadiehq/backstage-plugin-argo-cd	2.6.2	2.4.1
@janus-idp/backstage-plugin-keycloak-backend	1.8.5	1.8.6

プラグイン	1.1.0 のバージョン	1.1.1 のバージョン
@janus-idp/backstage-plugin-topology	1.18.7	1.18.8
@janus-idp/backstage-plugin-ocm-backend	3.5.6	3.5.7
@janus-idp/backstage-plugin-quay	1.5.9	1.5.10
@janus-idp/backstage-plugin-rbac	1.15.3	1.15.5
@janus-idp/backstage-plugin-tekton	3.5.10	3.5.12

### 6.2.3. Red Hat Developer Hub 1.1.0 の機能拡張およびバグ修正

#### いくつかのアップストリームバックエンドプラグインを動的にロードできない問題を修正

このリリースより前は、動的プラグインに変換したときに、アップストリームまたはサードパーティのバックステージバックエンドプラグインのカテゴリ全体を動的に読み込むことができませんでした。影響を受けたプラグインは、`resolvePackagePath()` バックステージ API メソッドを使用するプラグインでした。この問題は、データベースサービスを使用し、移行スクリプトを提供する多くのバックエンドプラグインに影響を与えました。本リリースでは、動的プラグイン機能の重要な制限が削除されました。

#### Atlassian Auth プロバイダーの設定が正しくない

このリリースより前は、認証 URL は `${baseUrl}/oauth/authorize` として構築されていましたが、これは Atlassian の想定パスと一致しなかったため、認証エラーが発生しました。これで、ユーザーは認証 URL に誘導され、認証コードを取得して認証に成功します。

#### RBAC: CSV はサーバーの再起動時にデータベースを再読み込みする

このリリースの前は、`policy.csv` ファイルを使用して Developer Hub に権限をロードしていました。権限が重複しているインスタンスが存在する可能性があり、権限がデータベースに再ロードされる可能性があります。

#### Create Role API で検証が機能しない

このリリースより前は、**Create Role** API の検証プロセスが無効だったため、無効なロールが作成される可能性があります。このため、これらのロールを更新または削除しようとするとう入力エラーが発生しました。

#### RBAC バックエンドプラグイン - ポリシーの変更にはサーバーの再起動が必要である

このリリースより前は、`policy.csv` ファイルを手動で操作すると動作に一貫性がなくなり、操作された権限またはロールが RBAC プラグイン内で正しく適用されませんでした。

#### Red Hat Developer Hub プラグインの監視はサポートされていない

このリリースより前は、Red Hat Developer Hub プラグインを監視するための管理者向けのサポートが提供されていませんでした。このリリースでは、管理者は監視目的で Developer Hub プラグインとそのバージョンのリストを生成できます。